

日本 VR 学会 複合現実感研究会 原稿執筆ガイドライン

複合 太郎^{*1}

現実 花子^{*2}

(省略可) Guidelines for Writing Technical Reports for SIG-MR, VRSJ

(省略可) Taro Fukugo^{*1} and Hanako Genjitsu^{*2}

Abstract – (和文でも可) This paper describes guidelines for writing technical reports for SIG-MR, VRSJ. Detailed instructions on font size and styles of all elements in the paper, including headers and footnotes, paper title and authors, section and subsection headings, and reference list. Some specific notes for respectively review and final papers are also stated. All papers submitted for SIG-MR workshops are expected to follow these guidelines: it is very important for the aesthetic consistency of papers through a volume that each author strictly follows the guidelines. This document also serves as a sample document that provides authors a concrete appearance of formatted pages.

Keywords : (和文でも可) format and style, guideline, SIG-MR technical reports, mixed reality

1 はじめに

本稿では日本 VR 学会複合現実感研究会に投稿する際
の原稿のスタイルおよび書式について説明する。

以下、2 章では原稿の構成と記述の形式およびスタイルについて、3 章では図表などの要素の作成の注意について述べる。これらは予稿集として誌面の統一感を得るための重要な事項であり遵守していただきたい。カメラレディ原稿 (印刷用原稿) では印刷結果の再現性や品質の観点から原稿作成の過程で配慮が必要であり、これらにかかる注意点について 4 章で述べる。

2 ページの構成

2.1 用紙と余白

用紙は A4 サイズとし、左右の余白はそれぞれ 20mm、上下の余白は 20mm および 24mm とする。したがって、テキスト領域は幅 170mm 高さ 253mm となる。2 ページ目以降は、偶数ページには上の余白中央に研究会名 (ゴシック体 7 ポイント)、巻号・発行年 (Times-Roman Bold 7 ポイント) を「日本バーチャルリアリティ学会 複合現実感研究会 Vol.1, No.1, 2013」の形式で、奇数ページには同じく上の余白中央に和文著者姓および和文原稿題目 (ゴシック体 7 ポイント) を「佐藤・鈴木: ○○○に関する研究」の形式で記述する。なお、著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを挙げて「佐藤他」などとして良い。また、和文原稿題目が長く 1 行に収まらない場合には簡略化した題目を記述する。

2.2 論文タイトル

タイトルページには、テキスト領域には本文に先立ち、①和文原稿題目 (ゴシック体 17 ポイント)、②和文著者氏名 (明朝体 14 ポイント)、③英文原稿題目 (Times-Roman Bold 10 ポイント)、④英文著者氏名 (Times-Roman 10 ポイント)、⑤英文または和文アブストラクト (Times-Roman Bold 10 ポイント)、⑥英文または和文キーワード (Times-Roman Bold 10 ポイント) を記述する。英文アブストラクトは 100 語または和文 300 文字程度、キーワードは 5 個程度とする。

これらはページの左右中央に幅 145mm の領域に収まるように配置する。また、項目の間には適当なスペースを挿入する。一方、ページの左下に脚注として、⑦和文著者所属 (明朝体 7 ポイント) および⑧英文著者所属 (Times-Roman 7 ポイント) を記述し、和文著者氏名および英文著者氏名に脚注記号をつけて参照する。

なお、③英文原稿題目、④英文著者氏名、および⑧英文著者所属は省略してもよい。

2.3 本文

上述の原稿題目からキーワードの記述のあと適当なスペースを空けて本文およびを記述する。本文はテキスト領域に 2 段組で記述する。段の間隔は 10mm とする。したがって、1 つの段の幅は 80mm となる。本文は必要に応じて章および節に区切って記述する。なお、各原稿を章とみなし、論文の中の区切りを節とする流儀もあり、それに従っても構わない。その場合は以下の説明で章を節、節を小節と読み替えていただきたい。章の見出しは章番号および章題目 (ゴシック体 10 ポイント・中央配置) を「2 背景と目的」の形式で記述する。また、この前後には適当なスペースを挿入

^{*1}ミクスト大学

^{*2}リアリティ研究所

^{*1}Mixed University

^{*2}Reality Research Institute

する。一方、節の見出しは章節番号および節題目 (ゴシック体 10 ポイント・左揃え) を「2.1 従来の研究」の形式で記述する。項番号および項題目などさらに細かい区切りの形式については著者の判断で決めてよい。タイトルに続いて文章段落 (明朝体 10 ポイント・インデント) を開始する。段落頭のインデントは 1 文字程度とする。句読点は「、。」または「,.」のいずれかに統一する。

2.4 謝辞

必要に応じて、本文の後に謝辞を記述することができる。謝辞の見出しは章題目と同様のスタイル (ゴシック体 10 ポイント・中央配置) で「謝辞」と記述する。ただし、章番号はつけない。文章段落は本文と同じスタイルとする。

所属機関等の倫理委員会の承認を得て実施された研究については、その旨を明記する。また、競争的資金等により実施された研究で謝辞の記述を求められている場合も、ここに記述する。

2.5 参考文献リスト

本文に続いて参考文献のリストを記述する。参考文献リストの見出しは章題目と同様のスタイル (ゴシック体 10 ポイント・中央配置) で「参考文献」と記述する。ただし、章番号はつけない。文献の各項目は先頭に参照番号 (Times-Roman 10 ポイント)、を角括弧をつけて表示する。それに続く個々の文献情報 (明朝体 9 ポイントまたは Times-Roman 9 ポイント) は参照に必要な十分な内容を記述する (たとえば、論文誌や予稿集は [1, 2, 3, 4]、著書であれば [5, 6])。姓名の記法や誌名巻号の略記法など形式について厳密な指定はしないが、リストの中では統一がとれていることが望ましい。

2.6 付録

必要に応じて、謝辞の後に付録を記述することができる。付録の見出しは本文の章節と同様の形式とするが、見出しは「A 付録」とする。

3 図表と参照

3.1 図表

図表は対象とするものやことを分かり易く説明するための手段であり、積極的に活用したい。図表を使用するかどうかの判断は、同様の内容を文章で説明した場合と比較して誌面を節約できるかどうかということが一つの目安である。

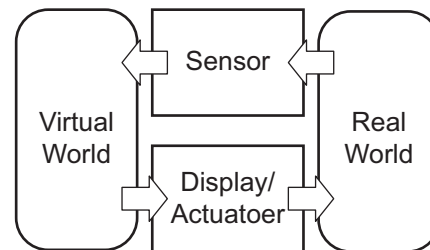


図 1 システム構成

Fig. 1 Configuration of system

図は線画・写真とも十分に鮮明なものを用い、図中の文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさとする。和文表題 (ゴシック体 9 ポイント) と英文表題 (Times-Roman 9 ポイント) を図の下につける。和文表題の形式は「図 1 システム構成」、英文表題の形式は「Fig.1 Configuration of system」とする (図 1 参照)。必要に応じて 2 つの段を通した図を用いてよい。

表についても、文字は本文の文字サイズと釣り合う大きさとする。和文表題 (ゴシック体 9 ポイント) と英文表題 (Times-Roman 9 ポイント) を表の上につける。和文表題の形式は「表 1 精度と時間」、英文表題の形式は「Table.1 Accuracy and time」とする (表 1 参照)。表についても必要に応じて 2 つの段を通したものを用いてよい。

表 1 精度と時間

Table 1 Accuracy and time

subject	accuracy [mm]	time [ms]
s1	23	538
s2	36	375
s3	21	412
s4	15	736

3.2 参照

参考文献および図表は本文中で必ず参照されなければならない。参考文献は参照番号を用いて「[1]」の形式で参照する。同様に図表はそれぞれ「図 1」「表 1」の形式で参照する。

4 紙媒体用原稿作成の注意

紙媒体の予稿集ではモノクロ印刷となるので、その場合でも視認性に問題がないことを確認すること。とくに写真のコントラストやグラフの線の区別などが読者に混乱を与えないように配慮する。極端に細い線は印刷されない場合がある。電子原稿 (PDF) の作成では図表の解像度が 600dpi 以上となるように、また、フォントはすべて埋め込む設定を使用する。

謝辞

日本 VR 学会の会員各位および研究会への投稿者各位に感謝する。本研究は〇〇研究費（課題番号〇〇〇〇）の助成を受けたものである。なお、本研究は〇〇大学〇〇学部倫理委員会の承認（承認番号〇〇〇〇〇）を受けて、実施されたものである。

参考文献

- [1] 著者 1, 著者 2: バーチャルリアリティに関する研究; 〇〇論文誌, 巻(号), 始頁-終頁(発行年. 月)
- [2] Author1, Author2: A study on Virtual Reality; Journal Name, vol(no), page-page (year.month)
- [3] 著者 1, 著者 2: バーチャルリアリティ環境の評価; 〇〇学会大会, 始頁-終頁(発行年. 月)
- [4] Author1, Author2: Evaluation of Virtual Reality Environment; Conference Name, page-page (year.month)
- [5] 著者 1, 著者 2, 編者(編): バーチャルリアリティの本; 〇〇出版, 所在地(発行年. 月)
- [6] Author1, Author2, Editor(Ed.): A book of Virtual Reality; Publisher, Address (year.month)

A 付録

A.1 付録の書き方

必要に応じて、謝辞の後に付録を記述することができる。付録の見出しは本文の章節と同様の形式とするが、見出しは「A 付録」とする。